



▲最後の抽選会まで大賑わい

つい最近まで夏が続いていましたが、気がつけばもうすぐそこには冬の気配が。年々秋が短くなるように感じます。

播州地方は祭りどころで、10月はとてものにぎわいます。播磨町でも各地域で、秋祭りが開催されました。

伝統的な祭礼行事として受け継がれてきた祭りも、近年は、いろんな世代が交流できる地域の行事として定着しているように思います。神輿や屋台、獅子舞など世代を超えて楽しむことができます。特に今年はコロナ禍も落ち着きを見せ、4年ぶりに通常開催となった地域も多く、たくさんの方が参加されたのではないでしょう。

播磨町でも、弥生時代から受け継がれてきた大中遺跡を舞台に秋一番のイベント、大中遺跡まつりが開催されました。飲食ブースも復活し、秋晴れの下、多くの方にご来場いただきました。

また、多くの茶道愛好家の方々をお招きし、第48回東はりま大茶会が開催されました。各地域で伝統文化の継承にご尽力をいただいておりますことに、深く敬意を表します。

さらに、菊花展では、今年も庁舎前を美しく彩っていただきました。そして、美術展においては、秀逸な作品が数多く展示されていました。

伝統芸能、芸術文化を継承していくことは並大抵のことではありません。倦まず弛まず努力を積み重ね、次の世代に引き継いでいく必要があります。

まちづくりにおいては、加えて柔軟さも必要です。先人の方々が築いてこられたものを受け継ぎながら、そこに新しい考え方を取り入れていかなければなりません。まちが変わらず皆さま方から愛され続けるためには、その時々の一歩に合わせ、少しずつ変わり続けることが大切ではないでしょうか。

播磨町を次代に受け継いでいくために、みんなで考え、みんなで話し合い、みんなの力を合わせたまちづくりを進めてまいりましょう。

播磨町長 佐伯 謙作



保健師だより おじいさんですか?

適量を 知って健康! アルコール

これからの季節、お酒を飲む機会が増える人も多いと思います。お酒は適量であれば、仕事の疲れを癒したり、仲間と楽しい時間を過ごすことができますが、問題なのは、多量のアルコールを飲むことです。



アルコールは、生活習慣病(がん、高血圧、脳出血、脂質異常症など)とも深い関係があることがわかっています。

アルコールは、生活習慣病(がん、高血圧、脳出血、脂質異常症など)とも深い関係があることがわかっています。

① 休肝日を設ける
週に2日は連続して休肝日を設けたいもの。以前よりも少ない量で酔えるようになり、酒量も減らせます。

② おつまみ、夜食に要注意!
おつまみや夜食は、脂っこいものや塩分が多く含まれているものをとりがちです。刺身や焼き魚、冷やっこ、野菜サラダなど、和食のおつまみや夜食がおススメです。

お酒とつまみつきあい、家族や友人と楽しい時間をすごしましょう。
問 健康福祉課健康係
☎ 079-435-2611

国が推奨する1日あたりの飲酒量

節度ある適度な飲酒量 (純アルコール量) = 男性 20g、女性 10g

純アルコール量20gとは?



生活習慣病のリスクが高まる飲酒量 = 男性 40g、女性 20g

《これ以上は、生活習慣病のリスクが高くなります!》

楽屋裏

10月10日、北池に20羽ほどのコウノトリがいると、連絡がありました。播磨町に初めてコウノトリが飛来したのは、平成30年12月。以来、毎年姿をみるようになり、ため池の水が少なくなると餌が取りやすくなるため、やってくるのではないかと推測しています。

播磨町や東播磨のため池や、空、電柱のついでに、コウノトリを見かけると、私はとてもうれしい気持ちになります。皆さんも、大きな美しい白い鳥(翼の先だけ黒い)を見かけたときは、「コウノトリかも?」と思いがけず注目してみてください。

兵庫県立 播磨南高等学校 生徒会

ハリナンはおもしろい

播磨南高校は創立から40年という月日を経て、開校当時と比べて大きく変化しています。

例えば、ボランティア活動です。播磨南高校は今、ボランティア活動に力を入れていて、「はりま春風フェス」や「国際交流」HARIMA」など、開校当時にはなかったイベントで地域の人と交流したり、お店や特設ブースのお手伝いをしたりできます。



▲潮風祭最優秀作品「ラプンツェル」



▲体育祭「OH! nawa nawa」

今年度の「国際交流」HARIMA」では様々な国の人と将棋崩し(駒の山を崩すゲーム)を楽しみ、閉会後は写真撮影をするなど、滅多に味わえないような良い経験ができました。

学校行事の中では潮風祭や体育祭が2大イベントとなっています。芸術保育類型は現3年生が最後の学年で、潮風祭のステージではどのクラスもハイレベルな演劇を披露しました。体育祭の「OH! nawa nawa」という競技は8の字飛び、ダブルダッチ、20人跳びがミックスされた時間を競うタイムレースで、全クラスでめっちゃくちゃ盛り上がりました。今、高校生活がとっても楽しいです!!!
(2年 生徒会長 米澤愛瑠)

暮らしの圏域に合わせた地域づくり

10月15日に中央公民館で、初めて策定する地域福祉計画に関する2回目のワークショップが開催されました。通常の計画策定では、計画がほぼできあがったタイミングで、パブリックコメントを実施し、計画に問題がないかを確認します。今回、初めて策定する計画ということもあり、検討状況や計画の方向性に間違いがないか、対話する場を設けました。

前半は策定委員会委員長の柴田学さん(関西学院大学准教授)から、地域福祉について学び、さらに播磨町で検討している地域福祉計画の特徴を紹介いただき、意見を交換をおこないました。「ウエルビーイング」がキーワードとなっており、一人ひとりの幸せと地域の



▲暮らしの圏域を見ながらの話し合い

幸せ生み出す福祉が必要だと話されました。後半では、自治会区域、コミセン区域、町全域などの区域「圏域」ごとに現在どんな活動があるか、今後あったらいいなと思う活動はなにかなどを話し合いました。播磨町は小さな町ですが、日々の生活の近くに複数あったほうが良い活動、町内に1つあれば十分な取組など、圏域ごとに必要な取組や活動は異なります。今後は、こうした「暮らしの圏域」に合わせた地域づくりが必要になってくるでしょう。

【まちづくりアドバイザーとは】 播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズに、より細かく対応するため、2020年度より「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援します。

まちづくりアドバイザーがお届けする

まちアド通信

協働推進課住民協働係
☎ 079-435-2364